

## (若狭と都を結ぶ道)

### プロジェクションマッピング

#### 若狭と奈良・京都を結ぶ街道

##### 概要

このプレゼンテーションでは、プロジェクションマッピング技術を使用して、若狭地方と古代の首都であった奈良と京都との歴史的なつながりを示しています。明るい色、画像、アニメーション、その他の視覚効果は、何世紀にもわたって 2 つの地域間の物資の流れと文化交流を作りだした道の物語を伝えます。このプレゼンテーションの長さは約 5 分です。

##### もっと詳しく知る

###### 地図のレイアウト

この地図は、若狭湾と昔の首都であった奈良と京都の間の地域の地形を示しています。この地図は南が上で、若狭湾はプレゼンテーションの「再生」ボタンの近くにあります。2 つの首都は、地図の中央付近に配置されており、ちょうど、現在の福井県、京都府、滋賀県にまたがるごつごつした山々を過ぎた所にあります。

###### 塩の出荷

1300 年以上前、若狭と角鹿<sup>つうが</sup>（現在の敦賀）で生産された大量の塩が奈良にある首都へ供給されました。発掘調査によって、若狭の塩や様々な海産物の荷札として使われていた木製の板が多数出土しました。首都への塩の輸送に使用されたルートは、光る白い線で示されています。

###### お水送りの儀式

東大寺で行われる有名な「お水取り（水を汲む）」の儀式のために、神水を奈良へ儀式的に送る、「お水送り（水を送る）」の儀式が小浜で 3 月 2 日に行われます。東大寺の行事では、聖なる井戸から水をくみ上げ、仏様に捧げます。その儀式の目的は、人々の罪を清め、春を迎えることです。青く輝く小川のようなアニメーションは、推定される小浜から奈良への儀式的な水の流れを表しています。

###### 京都とのつながり

794 年に都が京都（当初は平安京と呼ばれた）に移された後、若狭と都の関係は強化され続けました。鮮やかな黄色の線は、地域間の旅行や物資の輸送に使用された多数のルートを示しています。活発な交易は自然と文化交流を促進し、祭り、芸能、宗教、仏像が京都から若狭地方にもたらされました。若狭には、京に由来する、またはその影響を反映した多くの伝統や文化財が保存されています。

### **鯖街道**

江戸時代（1603年～1867年）、若狭湾から多くのサバの荷が徒歩で京都に運ばれ、後に「鯖街道」（サバの道）と呼ばれる交易路網が築かれました。若狭湾からの魚介類は、内陸の首都では貴重な商品であり、京料理の重要な部分になりました。鮮やかな青色の線は、若狭湾から都へと続く鯖街道のネットワークの分岐路を示しています。

### **現代の輸送ネットワーク**

この地域を通る現代の高速道路や国道は、光る白い線で示されています。よく整備された道路網は、伝統、経済、ライフスタイルが時とともに大きく変化する可能性があることを思い出させてくれますが、道路の主な機能は変わらず、交易、旅行、人々間のアイデアの交換を通じて進歩を支えています。